

をえを 知る

●特集 災害に備える

もしものため 非常持ち出し品を 準備しよう

水や食料など セットで1万円から

阪神大震災など大規模な地震や津波などの際には、水道や電気などのライフラインが中断し、食料などの流通が途絶えることがあります。もし

もに備え、素早く避難できるように日ごろから「非常持ち出し品」の準備をしておくことが大切です。

非常持ち出し品は、災害が発生したとき最初に持ち出す水や食料、救急医薬品、懐中電灯、ラジオなどの「一次持

ち出し品」とその後の数日間を過ごすための洗面用具、ポリタンク、卓上コンロなどの「二次持ち出し品」があります。最近はセットで販売しているものもあり、値段は一万円から三万円程度。村内の商店でも販売しています。

一次持ち出し品

一時持ち出し品は災害が発生したとき最初に持ち出すもの。食料や水は少なくとも三日分は用意しましょう。重さの目安は男性で15キロ、女性で10キロ程度。同じ種類の品なら、できるだけ軽量でコンパクトなものを選ぶようにしてください。

二次持ち出し品

二時持ち出し品は救済物資が届くまでの数日間を自活するためのもの。できれば五

日分程度は用意してください。一回で運べる量は限られますが、その後も何度かに分けて運ぶチャンスもありますので、水や食料などは少し多めにストックしておくとういでしょう。

阪神大震災では こんなものが役立つた

阪神大震災では、公衆電話をかけるための十円玉、移動のための自転車、断水時の風呂代わりとしてドライシヤンプリー・ウエットティッシュ・ポディ洗浄剤、居場所を知らせるための笛（ホイッスル）、キャリーカート、水を運ぶためのポリタンク、調理のための携帯コンロ、野菜不足を補うためのビタミン剤、常備薬、予備の眼鏡や補聴器などが役立ちました。

証言



昭和三陸大津波を体験した
野崎幸太郎さん(83)中央区
のぞき・こうたろう

川下から馬車音 のような津波が

わたしは当時十歳でした。あの津波のときは、みんなぐっすり寝込んでいました。地震は上下に大きく揺れ、長かったです。川下の方から馬車音のような「ガダガダ」という音が聞こえてきました。川を伝って津波が来る音でした。「津波だ」という声が上がりました。川の方を見ると真っ白くなって、津波は一気に、沢山橋の方までいきました。やがて「ガラガラ」と水の引く音がしました。水が引いた後もあちらこちらの山からは、家族を呼ぶ声や悲しいような叫び声が続きました。明るくなり、荒れに荒れた跡を見ると、子ども心に津波は恐ろしいのだと感じました。



一般的な非常持ち出し品

1. 非常持出袋 (シルバーリュック式、防災協会認定品)
2. 折りたたみ給水容器 (10ℓホルドキャリア取っ手、蛇口付)
3. 缶入カンパン (5年保存100g/2管)
4. マジックライス・五目ご飯 (5年保存100g/2個)
5. ヒートマジック35gセット (5年保存/2セット)
6. 飲料水 (5年保存500ml/2本)
7. 簡易トイレ (スケットイレS-7)
8. 防水ライト (単1電池×2本付)
9. 携帯ラジオ (単3電池×2本付)
10. 組食器 (アルミト3点セット)
11. 救急セット内容: コットン (20g)、救急絆 (10枚)、伸縮ホータイ (1個)、ガーゼ (1枚)、油紙 (2枚)、三角巾、ハサミ
12. 多機能ナイフ (缶切、栓抜兼用)
13. レジャーシート (Wサイズ)
14. 軍手